

体に感謝

おれは14歳。野球の練習をしすぎて肩を壊してしまった。昨日、『もう中学校では野球はできない』と言われた…。ちくじょう、べつすればいいんだ…



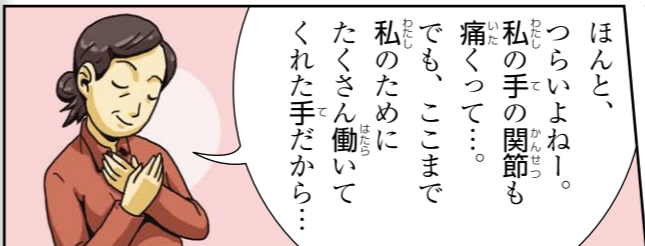
その日の午後、
とある病院の待合室



イタタタ…



あら、
おばあちゃん、
こんにちは！
ひざの具合は
どう？



ほんと、
つらいよね！
私の手の関節も
痛くって…
でも、ここまで
私のために
たくさん働いて
くれた手だから…



具合も何もないわよ！
痛くて痛くて腹が立つくらいだよ！

このひざさえなかつたら
どれほど楽かいな！

パキン!!



『こんなに痛くなるまで
使ってごめんね！
頑張ってくれて
ありがとうね！』って
さすってるのよ



本当にそうだよ。
私は間違ってたよ。
この目も、この耳も、
このひざも、
こんな私のために
70年以上も
つき合ってくれたんだからね…



ごめんよ、
ありがとうね、
ありがとうね…

そうだ！
この肩が悪いんじゃない。
無茶をして肩をいじめた
俺がいけないんだ！

吉田くん。どうぞ！



早く治して、
またいっしょに
野球しような！
これからもよろしくな！

はい！

世話になるすべてに礼を言おう

私たちは、身体のどこかが悪くなると、その回復を願います。でも、それまで元気に働いてくれていたことは忘れてしまいがちです。元気な時こそ身体のあらゆる部分のお世話になっっていることに心を向け、悪くなった時には、今まで元気に働いてくれたことに感謝して、また元気に働いてくれることを願わせていただきたいと思います。